

令和4年(2022年)2月22日
記者会見資料
幼児保育課
デジタル推進課

## 保育業務支援システム導入実証実験事業について

### 1 趣 旨

園児の欠席連絡や登降園管理、保育園から保護者への連絡などのデジタル化を進めることにより、市民サービスの向上及び保育士等の事務負担の軽減による保育園運営業務の効率化を図るため、ICT ツール（保育業務支援システム）導入の実証実験を行うものである。

### 2 事業内容

実証実験対象施設において、保育業務支援システムを試験的に運用し、市民サービスの向上及び保育士等の事務負担の軽減への効果等を検証する。

#### (1) ICTツール（保育業務支援システム）の導入により期待される効果

##### ア 保護者の利便性の向上 【市民サービスの向上】

園児の出欠席の連絡や体調等の情報をひとつのアプリでいつでもどこでも連絡及び確認をすることができるようになることから、これらにかかっていた時間の短縮が図られる。

また、健康管理情報（身長や体重など）と連動させることで子どもの育ちをアプリで確認することができる。

##### イ 保育士の業務負担の軽減 【保育の質の向上】

保育士が子どもと向き合う時間を増やし、「保育分野での業務負担軽減・業務再構築ガイドライン」で求められている保育の質の向上につなげるため、これまで手作業で入力・確認していた園児の日々の出欠状況の確認、職員の出退勤の管理を ICT 化し、事務作業時間の大幅な短縮につなげる。

また、指導案や週案といったこれまで個別に作成が必要だった各種帳票をアプリに一元化することにより、書類作成時間が短縮される。

##### ウ ペーパーレス化の促進 【脱炭素社会の実現】

これまで、紙で出力していた保護者へのお便り等をアプリで送信することにより、ペーパーレス化が促進されるため、脱炭素社会の実現に寄与する。

##### エ 職員の賃金計算等に係る作業時間の削減 【働き方改革】

出退勤の管理を ICT 化することにより、勤務時間がデータ化され、これまで手作業で行っていた賃金計算が簡略化でき、作業時間の削減につながる。

## (2) 実証実験の方法

ア 対象施設

横須賀保育園

イ 保育業務支援システムの機能と効果測定の方法等

機能	説明	定性的効果測定※1	定量的効果測定※2
お知らせ配信機能	・園から保護者への連絡をアプリで可能 ・既読/未読の確認が可能	○	○
保護者連絡機能	・欠席連絡をアプリ上でいつでも可能	○	—
園児台帳機能	・園児の情報を一括管理可能	—	—
健康管理機能	・身体測定、検温等の状況をアプリで管理 ・連絡帳機能と連動	○	—
連絡帳機能	・毎日記入している連絡帳をアプリで入力可能	○	—
登降園管理機能	・登降園時間をアプリで簡単に登録可能 ・当日出席園児数の確認が不要になる ・出席簿の入力が不要になる	○	○
帳票管理機能	・連絡帳や登降園管理の情報を保育日誌等へ自動反映	—	○
勤怠管理機能	・職員の出退勤時間をアプリで管理 ・賃金計算に要する業務時間の削減	—	○

・定性的効果測定※1 … 保護者・保育士アンケートの実施

・定量的効果測定※2 … 各業務に係る作業時間の導入前後比較

## 3 予算措置

保育業務支援システム導入実証実験事業 533千円（実証実験委託料）